

経済連情報 11

安全・安心・新鮮でおいしい
静岡県産の農畜産物をお届けします。

● 2023. 11
● NO.1310

営農資材をめぐる情勢と コスト低減・農作業の効率化に向けた取組について



▲はままつ洋菜共販60周年記念大会で祝辞を述べる石川理事長



▲静岡のばらフェア(大田市場)

Main topics

営農資材をめぐる情勢と
コスト低減・農作業の効率化に向けた取組について…01

topics&news

担当者技術向上と連携強化のため

令和5年度静岡県JA安全分析担当者研修会を開催…03

県産栗の品質向上を

令和5年度栗果実品評会 ……………03

県下JAグループの連携を図る

令和5年度第1回静岡県JA営農経済部長会…04

地域の農産物で食育

園児へ県産いちじくを贈呈……………04

県産いちごの販売戦略などを決定

静岡県いちご協議会総会を開催……………04

静岡県産柑橘の販売強化を目指す

令和5年度静岡県柑橘販売協議会……………05

はままつ洋菜の出荷計画、販売取り組みなどを共有

はままつ洋菜共販60周年記念大会 ……………05

県産農産物をPR

直営焼肉店で「石川小芋」を提供……………06

JA営農経済職員が相互研鑽

営農経済事業パワーアップ大会……………06

有利販売へ向けた品質確認と情報共有

葉ネギ品質査定会・販売対策会議……………07

大田市場で県産バラをPR

静岡のばらフェア……………07

営農支援だより

野菜の冬期温度管理……………08

お知らせ

テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介…09

産地直送通販サイトJAタウンからのお知らせ…09

お年賀茶のご案内……………10

あぐりんく静岡からのお知らせ……………10

営農資材をめぐる情勢と コスト低減・農作業の効率化に向けた取組について

I はじめに

本会のＪＡ静岡２か年計画（以下、２か年計画）では、新時代に対応した総合事業改革を行うことを基本目標に定めています。その戦略の一つとして「コスト低減と農作業の効率化に向けた支援」を掲げ、購買事業

において多面的な取組を行っています。

今回のメイントピックスでは、農産物の生産・流通に欠かせない営農資材に焦点を当て、本会営農資材課が２か年計画の重点項目に定め、積極的に取り組んでいる包装資材の規格集約とＩＣＴを活用した資材の普

及提案について最新の営農資材情勢を交えて紹介します。

Ⅱ 営農資材をめぐる情勢

営農資材は、パイプハウスや育苗箱、農業用ビニールなど生産の場面で使用する「園芸資材」（写真１）と



▲写真1 農産物の生産を支えるパイプハウス（園芸資材）



▲写真2 段ボールに梱包され、出荷される農産物（包装資材）



▲写真3 いちごの販売用資材（包装資材）

段ボール箱、プラスチック容器などの出荷、流通段階で使用する「包装資材」（写真2,3）に分けられます。

1. 営農資材価格の高騰について

園芸資材、包装資材ともに、ウクライナ危機による石油関連商品の高騰、輸送費、光熱費の高騰、円安の影響など様々な要因から、価格が高騰しており、営農資材等の価格上昇が農産物販売価格に反映されにくいことが課題となっています。

2. 農業におけるＩＣＴ活用について

近年、ロボットやＩＣＴなどの先端技術を活用するスマート農業が注目され、作業の自動化による省力化やデータの活用による生育予測アプリの開発、病害虫防除などが取り組まれています。担い手の減少・高齢化による労働力不足が懸念される昨今、スマート農業の導入による労力軽減や作業効率向上、生産規模の拡大などが期待され、実用化が進められています。

III 営農資材課の取組

1. 段ボール箱の規格集約

原紙価格や加工コストの上昇などによる、包装資材の価格高騰を受け、対策として、段ボール箱の規格集約の取組がJA全農を主体に行われています。

地域や品目によってさまざまな規格が存在する段ボール箱を、パレットサイズを基準とした全国標準規格に集約することで、一つの規格に注文と生産を集中させ、コストを抑えることができます。また、輸送面においては、より効率的な運搬が可能になり、輸送コストを削減すること

ができます。

本会営農資材課においても、つぎの取組みにより、営農資材のコスト低減と輸送時における作業効率向上を図っています。

①出荷段ボールの仕様変更による価格引き下げを提案（令和4年度は82アイテムを提案、採用品目について平均6%の引き下げ）。

②JAと連携したタマネギ・馬鈴薯・ニンジン・海老芋の4品目で全国標準規格段ボールを導入。全農全国標準規格化によるコスト削減を実現。

③販売部門と連携し、キウイフルーツで県下統一段ボールを、野菜



▲馬鈴薯の全国基準規格段ボール導入事例



▲タマネギの全国基準規格段ボール導入事例

花きなどで汎用段ボールを提案し、規格集約によるコスト削減を実現。

また、本年度も引き続き包装資材の仕様見直し（段ボール箱の適正包装化、物流合理化に資する規格）や共通仕様の設定検討などの価格抑制の取組みを継続して実践します。

2. ICTを活用した農業資材の提案普及

営農資材課では、生産者の生産性の向上・農作業の効率化のため、省力化資材としてハウス環境モニタリング・ICT機器「はかる蔵」「つご蔵」の推進に取り組みました。ICT機



▲はかる蔵（親機）



▲はかる蔵（子機）

器の導入により、ビニールハウス施設内の気温や湿度、地温やCO₂濃度などを測定し、PCやスマートフォンアプリなどで確認することが出来ます。リアルタイムでハウス内のデータを確認できるため、気温調整や光合成促進機を効率的に稼働させることが出来ます。また、環境制御機器「つご蔵」との連携により、スマートフォンから光合成促進機などの機器を遠隔で稼働させることができます。令和4年度は、県下に40台を導入しました。営農資材課は、JA職員や生産者への運用勉強会の開催や県と連携した普及活動などを通して今後も提案普及を進めていきます。

IV おわりに

今回のメイントピックスでは本会の「コスト低減・農作業の効率化に向けた取組」について紹介しました。本会は、営農資材をはじめ、肥料、燃料などあらゆる生産資材価格が高騰する中、安定供給と価格抑制に取り組めます。

また、生産性向上と農作業効率化に向け様々な提案を行い、農家所得の向上に尽力してまいります。

問い合わせ先

●みかん園芸部 営農資材課

電話・054-284-9726

担当者技術向上と連携強化のため

令和5年度静岡県JA安全分析担当者研修会を開催

生産振興開発課は9月6日、焼津市の土壤肥料分析センターで、「令和5年度静岡県JA安全分析担当者研修会」を開き、県内JAで残留農薬などの分析を担当する担当者ら12人が参加しました。残留農薬分析における課題などの意見交換や講演を通じて、技術向上と連携を強化しました。

研修会では、県内各JAが取り組む安全分析事業について、担当者間で情報共有し、本会土壤肥料分析センターの測定室や大井川肥料工場、講師を務めたJA全農耕種総合対策部営農・技術センターの西森俊英

室長は「残留農薬分析をめぐる情勢について」と題して講演しました。西森室長は、JA全農の残留農薬検査室では、国内で使用される農薬について、開発時の農薬GLP複合確認施設による試験や、適正使用のためのJAグループによる「安全防除運動」の推進、収穫された農産物についても品質保証のために残留農薬検査を実施していることを説明し、複数段階で徹底した安全管理を実施することで、安心安全な農産物を消費者に提供できることを報告しました。

県産品の品質向上を

令和5年度県果実品評会

9月13日、静岡県落葉果樹振興協会（事務局・柑橘果樹課）は、掛川市のJA掛川市富部集荷場で令和5年度県果実品評会を開きました。

静岡県果樹研究センター果樹加工技術科の磯部卓文科長が審査長を務め、県の職員ら審査員4人が、9点の出品について形状や玉ぞろい、傷や汚れ、色沢、病虫害などについて審査しました。

磯部審査長は「温暖化の影響により、生理落果や害虫の発生など栽培が難しい年が続いているが、審査対象となった荷口の果実は全体的に外觀が良いものが多く、厳選されたレベルの高い品評会となった。生産者



▲土壤肥料分析センターで説明を受ける参加者



▲肥料工場視察のようす



▲審査のようす



▲金賞を獲得した鈴木さんの栗

の優れた技術に敬意を表したい」と講評しました。
上位入賞者は次のとおり（敬称略、カッコ内はJA名）

金賞

掛川市長賞

掛川市農業協同組合代表理事組合長賞

鈴木 志寿子（JA掛川市）

銀賞

静岡県農林技術研究所果樹研究センター長賞

戸塚 昌男（JA掛川市）

銅賞

本村 正己（JA掛川市）

榛村 智（JA掛川市）

県下JAグループの連携を図る

令和5年度第1回静岡県JA営農経済部長会

企画管理課は9月19日、「令和5年度第1回静岡県JA営農経済部長会」を掛川市の掛川グランドホテルで開催し、JAと本会の担当部長ら28人が参加しました。県下JAの営農経済部門の担当部長が情報交換等を通して会員相互の連携を図り、組合員への貢献と系統事業の発展を期することが目的。

また、同日には本会施設の巡回視察を実施しました。小笠食肉センター、パールライス袋井工場、大井川肥料工場、土壌肥料分析センター、大井川肥料倉庫、農機整備センター



▲会議の様子

を順に施設状況や業務内容を確認し、本会事業への理解を求めました。

会議では、開催に先立ち、部長会の副会長を務めるJAおおしがわの寺坂雅俊営農経済部長と本会石川和弘代表理事理事長が挨拶をしました。その後は報告事項として、本会より営業部の輸出事業について、清水港の活用や米国の日本食レストランへ向けた静岡茶の提案などの販路拡大の取り組みを紹介した他、くらし支援部の石油事業について最新の情勢を報告しました。



▲肥料工場を視察する担当部長ら

地域の農産物で食育

園児へ県産いちじくを贈呈

西部共計いちじく産地協議会（事務局…西部支所西部みかん園芸課）とJA遠州中央いちじく部会は9月25日、磐田市の保育園リーザプレスクールで園児約60人に県産いちじく120パックを贈呈し、同JAの生産者と職員より園児へ直接いちじくを手渡しました。

贈呈事業は、園児にいちじくの美味しさを知ってもらい、地域の農産物に親しみを持ってもらうため、例年開催しており、参加した職員らは模型を使った説明やクイズを通して園児との交流を深めました。



▲園児と交流する本会職員

県産いちじこの販売戦略などを決定

静岡県いちじく協議会総会を開催

静岡県いちじく協議会（事務局…野菜花卉課）は10月2日、静岡市内で「静岡県いちじく協議会総会」を開き、県やJA・本会関係者ら35人が出席しました。

総会では、令和4年度の事業について報告され、令和5年度の事業計画や販売戦略などを協議し、静岡県いちじく選出など提出したすべての議案が承認されました。

令和5年度の販売目標は、年間出荷数量5,000トン、販売金額70億円とし、事業計画では、静岡県いちじくPR活動を行う静岡いちじく娘の起用や東京都内の商業施設でのイベント開催などの消費宣伝事業を絡めたPRを実施し、有利販売と農家所得の向上に取り組むことを決定しました。



静岡県産柑橘の販売強化を目指す

令和5年度静岡県柑橘販売協議会

静岡県経済連柑橘委員会、(一社)静岡県柑橘振興基金協会、本会(柑橘果樹課)は10月3日、静岡市で令和5年度静岡県柑橘販売協議会を開き、柑橘委員会やJA職員、市場関係者ら約70人が出席しました。協議会は、県産柑橘の有利販売に努めることが目的で、産地情勢や販売方針、市場情勢などを共有しました。

本県の令和5年産みかんは、裏年の年回りとなるものの、着果状態は良好で、9月中旬の果実分析結果では、各品種ともに過去2年より糖度が高く推移しています。出荷計画では、数量で前年実績比7%増加の4万5000トン、販売金額



▲協議会のようす

135億円を目標としました。

協議会では、県産みかんの認知度向上と購買意欲醸成を高めるため、消費宣伝事業を行うことなどが報告されました。



▲静岡県経済連柑橘委員会の森田能正委員長



▲本会より産地情勢を報告

はままつ洋菜の出荷計画、販売取り組みなどを共有

はままつ洋菜共販60周年記念大会

浜松洋菜協議会(事務局…西部支所西部みかん園芸課)は10月12日、浜松市中区で「浜松洋菜共販60周年記念大会」を開き、生産者、JA、市場などの関係者ら約100人が参加しました。

大会では、市場関係者より、市場情勢を報告した他、JA担当者、事務局より、令和5年度産の出荷計画や生育状況、品目別の取組み事項などを報告しました。出荷計画、生産販売対策及び取り組み事項では、出荷数量4,800トン、販売金額14.4億円を目標とし、生産者の持続的な



▲大会スローガンを唱和する参加者ら

農業経営を支援するため、産地と消費地でそれぞれ実践する販売強化や消費拡大の取り組みを共有しました。令和5年度は、浜松洋菜共販60周年を迎えるにあたり、参加者全員で大会スローガンを唱和し、静岡県西部農林事務所の伊藤直樹部長と本会石川和弘代表理事理事長が祝辞を述べました。また、功労者表彰と記念講演を実施し、講演は(株)ヤオコー生鮮部青果担当の西山淳一副部長が「青果物流通の変化、ヤオコーの取り組みについて」と題して行いました。



▲祝辞を述べる石川理事長

県産農産物をPR 直営焼肉店で「石川小芋」 を提供

流通開発課は10月10日～31日までの期間、静岡市葵区の本会直営焼肉店「駿府の肉処 静岡そだち」で、「秋の収穫祭」を開催しました。キャンペーン期間中は一部メニューが特別価格となった他、県産農産物のPRとしてJA遠州夢咲産の「石川小芋」を使用したメニューを提供しました。

「石川小芋」は小ぶりの球形で煮崩れしにくく、ねっとりとした食感ときめの細かい白い肌が特徴。9～11月が出荷の最盛期となります。同店では、単品メニューやコース料理の前菜などで塩ゆでとして提供しました。

流通開発課は「今後も県産農畜産物のアンテナショップとして旬の県産品を来店客にPRしたい」と話しました。



▲石川小芋をPRする久保田将希店長

JA営農経済職員が相互研鑽 営農経済事業パワーアップ大会

生産振興開発課は10月18日、静岡市駿河区の県農業会館で「営農経済事業パワーアップ大会」を開き、県内JAの営農経済渉外担当者（TAC）や、肥料・農薬・営農資材企業などの関係者ら約100人が参加しました。商品提案会、優良事例報告、分科会の3部構成で、大会を通じて担当者が相互に研鑽し、生産者とのコミュニケーションや提案力のレベルアップを図りました。

大会で挨拶した本会山下昌徳常務理事は「農業を取り巻く厳しい情勢の中、JAグループやメーカーが一体となつて課題解決に取り組むことが重要。大会での意見交換を日頃の渉外活動に活かしてほしい。」と話した。

ました。

商品提案会では、肥料・農薬・営農資材の企業27社が出展し、参加者は商品や技術の理解を深めました。

優良事例報告では、JA全農西日本営農資材事業所TAC・生産対策課の外園賢司審査役より全国情勢と渉外担当者の提案による成功事例を紹介しました。JA埼玉中央のいちごの病害虫防除とJAほくさいの里芋栽培の提案で規模拡大と生産効率向上を実現した2つの事例から、渉外担当者の出向く活動は産地の維持や発展に大きく貢献していることが報告されました。

分科会では、参加者が8班に分かれ、各JAの出向く活動における課

題や問題点を共有し、それぞれの取り組み内容について情報交換しました。



▲第1部 商品提案会（本会肥料農薬課ブース）



▲挨拶する山下常務



▲第2部 優良事例報告



▲第3部 分科会

有利販売へ向けた品質確認と情報共有 葉ネギ品質査定会・販売対策会議

名古屋事務所は10月17日、名古屋熱田区の名古屋青果(株)で、「葉葱品質査定会・販売対策会議」を開き、関西・北陸・中京地区の卸売会社17社とJAとびあ浜松、本会の担当者らが参加しました。競合産地との比較による、本県産葉ネギの有利販売と生産維持拡大を図るため、課題や情報を共有することが目的。同品目での関係各社や産地を参集した販売対策会議の開催は今回が初めてとなりました。

査定会では、JA静岡市産1点、JAおおいがわ産1点、JAとびあ浜松産3点、福岡県産1点、大分県産



▲査定会のようす

1点、佐賀県産1点、高知県産1点、愛知県産1点の計10点を査定し、形状や色、病害虫の有無などの品質を確認しました。

販売対策会議では、本会より販売実績を報告した他、産地情勢報告としてJAとびあ浜松の担当者が生育状況や出荷目標を共有しました。また、出荷数量減少の影響などで葉ネギを含めた野菜類の単価高が続いていることを受け、11月以降の販売見通しによる販売対策を協議し、卸売各社と共有を図りました。



▲査定した10点の葉ネギ

大田市場で県産バラをPR 静岡のばらフェア

野菜花卉課は、10月20日から27日の期間、東京都大田区の大田市場で、市場関係者らに向けた「静岡のばらフェア」を開催しました。県内産地で生産したバラ約160品種を展示し、県内6産地（JAしみず、JA静岡市、JAおおいがわ、JA掛川市、JA遠州夢咲、JA遠州中央）の生産者や職員ら18人が仲卸店頭で販売促進活動を行い、本県産バラをPRしました。

本県は温暖な気候を生かしたバラ栽培が盛んで、産出額は全国第2位の産地です。共選産地としての安定したロットに加え、業務や小売需要に対応する少量品種などバラエティに富んだラインナップも特徴です。10月20日のセリ開始前には、(株)フ



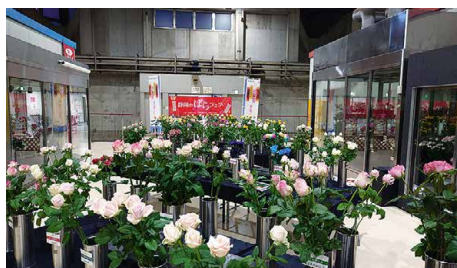
▲挨拶する大場氏



▲店頭販促のようす

ラワーオークションジャパン（FAJ）ではJAおおいがわバラ部会の曾根一孝氏、大田花きではJA掛川市バラ部会の大場宏基氏がそれぞれで挨拶を行いました。

店頭販促では、各産地ごとに工夫



▲県産バラの展示▲



野菜の冬期温度管理

一 概況

野菜には、それぞれ生育に適した温度があります。一般的に多くの野菜は生育適温が15～20℃前後のものが多く、生育限界温度は5℃くらいです。冬期の露地野菜は

表1 主な露地野菜・施設野菜の生育適温

施設野菜	生育適温	昼間の気温	夜間の気温	生育限界低温
トマト	平均20℃	20～25℃	10～15	5℃以下
ナス	25～30℃		13～18℃	10℃以下
イチゴ	17～20℃前後	果実肥大20～24℃ 葉生育伸長20～25℃	果実肥大6～10℃	果実肥大0℃
露地野菜				
キャベツ	15～20℃	15℃以下で生育緩慢		－4℃以下で枯死
ブロッコリー	15～20℃	花蕾発育16～18℃		花蕾障害1℃以下
レタス	18～22℃	生育停止5℃以下		
白ネギ	15～20℃	軟白適温5～25℃		－8℃にも耐える
ダイコン	生育初期24℃前後	5℃以下で根部肥大停滞		－3℃
	生育後期15～20℃			－5℃凍害



写真1 トマト密開果

低温下で生育は緩慢になるものの生育はします。ただし、氷点下近くになると生育は止まり、障害が発生することがあります。一方施設で栽培する野菜は様々な技術・工夫で適切な温度管理により冬期の野菜栽培を可能にしています。各作物で品種ごとに差はありますが、主な野菜の生育適温を表1に示しました。

二 トマトを低温管理（夜温）にした場合の影響

トマトは、他の品目と比べて夜間の管理温度が低めであるため、比較的暖房費をかけずに栽培できます。生育適温は、昼間気温が20～25℃、夜間最低気温が13℃、地温が15～18℃とされており、最低限界が5℃、それ以下では生育は



写真2 トマト灰色かび病

停止してしまいます。
燃油節約で夜温を低く管理した場合の影響は、栽培方法や生育ステージ及びトマトの器官及び品種等により異なりますが大まかには以下の症状が見られます。
①成長の遅延・停滞で葉数や葉の大きさは縮小化して株が貧弱化する。（成長点付近の葉は立ち、葉の縁はちぢれ、節間は短くなる。葉色はまず濃い緑色になるが、さらに低温が続くと、葉脈間が黄化する。）
②開花までの期間や着果から収穫までの期間の長期化（トマトの着色は品種により違いがあるが積算温度でほぼ決まる 概ね1000℃前後）。
③隔離栽培等では根が褐変し活動が低下する。

④花芽分化時の花で細胞分化が異常になり、乱形果（密開果やチャック果等）（写真1）が多発する。

⑤花粉稔性が低下し十分な受精ができなくなるため、不着果や果形異常が発生しやすくなる。

⑥マルハナバチの活動が衰える（受粉ができない）。

⑦灰色かび病（写真2）など多湿を好む病害の発生が多くなる。

通常より夜間温度を下げ管理し、このような異常が認められるようであれば、ただちに適正温度管理に戻してください。

トマトの温度管理においては、栽培経験、暖房コスト、施設や資材の状態等様々な要因との兼ね合いで経済性を考慮した夜温管理が必要となります。

三 おわりに

冬期の野菜栽培においては、作物の特質にあった栽培・温度管理が必要です。栽培する作物適正温度の確認と施設栽培では今一度、ハウスの破れの補修や、暖房機の点検・掃除、被覆資材の活用等の栽培方法、栽培環境の点検を実施し、暖房コストの削減とともに適正な温度管理に努めましょう。

（野菜花卉課 技術コンサルタント 曾根克巳）

「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡)

担当：食糧部 食糧課 (TEL:054-284-9737)

静岡県産米流通連絡協議会（事務局：食糧部）は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」（テレビ静岡・全11回放送）に協賛し、県産米のPRを行っています。

令和5年度の第6回目（10月21日）の放送では、タレントの村上佳菜子さんと本谷美アナウンサーの2人が藤枝市と焼津市から県産のブランド米「きぬむすめ」の令和5年産の新米を紹介しました。「きぬむすめ」は、粒が大きく粘りがあり、炊き上がりの白さとツヤ、ふっくらとした食感が特長。

番組では、ビデオメッセージで出演したJAおおいがわの生産者、杉本清孝さんが「豊富な大井川の水で育ったきぬむすめをぜひ食べてみてください」と話し、「きぬむすめ」をPRしました。

今回の「しずおかごはんが食べたい！」は御前崎市と牧之原市からお笑い芸人のモグライダーが紹介予定です。



産地直送通販サイトJAタウンからのお知らせ

お得なキャンペーン実施中です！

JAグループ

「国産」を食べて応援
キャンペーン実施中／

お客様の送料負担なし

送料はJAグループが負担します

期間 2023年10月1日～11月末日まで

新規会員登録キャンペーン

期間中新規会員登録頂いた方の中から抽選で10,000名様に

1,000円分の
JAタウンクーポン券をプレゼント！

新規会員登録期間 2023年10月2日(月)～2023年11月30日(木)

JAタウンでは、11月30日（木）までの「JAグループ国産国産月間」に「国産農畜産物のお客様送料負担なしキャンペーン」を開催しています！

「国産国産月間」の取り組みの一環として、継続的に国産農畜産物を購入していただくきっかけをつくるため、キャンペーン期間中、全国各地5000以上の農畜産物対象商品をお客様の送料負担なしで購入することができます。

また、「新規会員登録キャンペーン」として期間中にJAタウンを新規会員登録頂いた方の中から抽選で10,000名様に1,000円分のJAタウンクーポン券をプレゼントしています！

JAタウンの本会ショップ「しずおか手しお屋」でも対象商品をご用意しますので是非ご利用ください！



しずおか手しお屋 🔍 検索



◀「しずおか手しお屋」
ページはこちらから

担当：営業部 流通開発課 (TEL:054-284-9728)

お年賀茶

新しい年を慶びのお茶で迎える

新年のご挨拶に毎年ご好評をいただいている
お年賀茶のご案内です。



輝かしい新年のご挨拶にふさわしい、
お年賀茶の定番！
金粉入りで鮮やかに！
縁起良く！



17100654

金粉入りお年賀茶
(カートン入り)

30g×10個

6,400円(1個あたり)

(常温365日間)

※10個入での販売となります。

※包材のデザインが変更になる場合があります。

17100655

御年賀茶
(たとう紙入り)

40g×10個

6,000円(1個あたり)

(常温365日間)

※10個入での販売となります。

17100656

御年賀茶
(たとう紙入り)

80g×5個

4,900円(1個あたり)

(常温365日間)

※5個入での販売となります。

茶どころ静岡定番の煎茶を、やさしく、たとう紙で包みました。温かい心を先様にお伝えするお勤めの逸品です。



あっさり風味の煎茶を、あえて素朴にクラフト袋へ詰めてみました。シンプルに心を伝えます。

17100757

御年賀
(クラフト平袋)

30g×10個

3,500円(1個あたり)

(常温365日間)

※10個入での販売となります。



商品の価格はすべて消費税込みのお届け価格になっています。

このマークの商品にはのしを同梱することができます。
(ご注文時にお申し出ください)

年内配送のご注文の締切

令和5年12月8日(金)

*年内配送は12月22日(金)頃までのお届けとなります。

*商品の価格はすべて消費税込みのお届け価格になっています。(別途送料がかかる地域があります)

【お問合せ先】

静岡ローディング株式会社 農協直販事業部

〒422-8006 静岡市駿河区曲金3-8-1

TEL 054(288)6688 FAX 054(288)4444

お電話(通話料無料) 0120-014859

FAX(送信料無料) 0120-418465



【 営農ナビ 】

文字が大きく見やすくなってリニューアルしました！

あぐりんく静岡からのお知らせ

県内
JA限定

生産・事業推進に役立つ情報が満載!!

農産物安全分析センター

分析メニュー、申込書、分析フロー(手順)を掲載しています。分析の際はコチラから！

生産振興情報

GAPに関する情報や担い手支援(TAC)に関する情報(パワーアップ大会)について掲載しています

経済連肥薬通信

更新

経済連肥薬通信11月号

経済連コンサルタントによる技術情報

販売情報

東京、名古屋、大阪の青果・花卉の概況を掲載しています。

●イントラから利用できます。

～他にも、農畜産物別の情報なども充実～

担当：営農総合対策部 生産振興開発課(TEL 054-284-9729)



美味しい!
新鮮!
安全安心。

静岡レタス うまレタ。



静岡レタス
静岡県レタス協議会 県下JA-JA静岡経済連

「うまレタ。」とは
「うまい」と「レタス」

- **うまい(美味しい)レタス**
「旨い」「美味しい」レタスをお届けします。
- **うまれた(産まれたて)**
「新鮮」なレタスをお届けします。
- **うまい(上手い)レタス**
「上手い」栽培技術で安定供給に取り組めます。
- **“.”は安全安心の〇**
安全安心なレタスをお届けします。

担当：みかん園芸部 野菜花卉課 (TEL：054-284-9714)

